

非漢字系学習者に対する初級レベルでの漢字指導
国際大学における授業報告

中沢佐企子

1. はじめに

本稿は、国際大学における、1997年10月から12月にかけての日本語一（以下J1と呼ぶ）（注1）と1998年1月から3月にかけての日本語二（以下J2と呼ぶ）（注2）で行った漢字クラスの授業報告である。

このクラスでは、文法や会話等を学習する教科書“Japanese for IUJ Students”（注3）（以下主教科書と呼ぶ）とは別に、漢字クラスでは、「基本漢字 500 BASIC KANJI BOOK VOL.1」（注4）（以下テキストと呼ぶ）を使用した。そこで、教科書と異なる漢字テキストを使用した場合の問題点について考えてみたい。また、日常生活で日本語を使う機会があまりなく、専門の勉強に忙しい非漢字系学習者に対する初級レベルでの漢字指導についても考えてみたい。なお、筆者は、J1の3週目の第1課から授業を担当した。

2. クラスの概要

2. 1. クラスの環境・構成

国際大学では、日本にある大学ではあるが、授業中のみならず日常生活でも英語が学内での媒介言語である。その上、学内の寮に住んでいる学生が多く、地理的に大学が町の居住区から離れているために、東京等の都会に住んでいる学生に比べて、学生が日本語に接する機会は少ない。

また、学生は皆、大学院生であり、それぞれの専門の勉強がたいへん忙しい。専門のクラスで発表をしたりレポートを書いたり試験があったりする時には、日本語の勉強に時間を割くことはたいへん難しい状況である。

学生数はJ1クラスが47名（26カ国）、J2クラスが33名（20カ国）であった。（注5）その内、漢字圏の学生はJ1が7名、J2が3名であった。J1では、中国語の学習歴があるロシア人の学生が1名いた。これらの、このレベルでは漢字を学習する必要がないと判断された学生達は、毎週漢字クラスの初めに行われるクイズを受け、宿題を提出するだけで、授業には出席しなくてもよいこととした。

2. 2. 授業の基本方針

J1とJ2では、主に聞く・話すのコミュニケーション能力を中心に授業が進められる。それぞれ、週に6コマ（1コマ=90分）の授業があり、その内、5コマが文法・会話等の授業で、1コマが漢字の授業である。主教科書に出てくる漢字にはすべてふりがながふってあり、漢字の比重は重くない。さらに、専任担当者から「学生達は専門の勉強で忙しいから、楽しく日本語が勉強できるようにしてほしい」と言われた。そこで、筆者は学生が「漢字は難しく大変だ」と思わないように気をつけながら導入し練習するようにした。

漢字の成績はクラス全体（文法・会話等全て）の10%を占める。その内訳は、中間試験 2%、期末試験 3%、クイズ 2.5%、平常点 2.5%である。なお、出欠は、漢字だけではなく、文法や会話等を含んでクラス全体の成績の5%である。

漢字クラスのテキストは「基本漢字 500 BASIC KANJI BOOK VOL.1」である。専任担当者によると、2年前までは、主教科書に合わせて漢字を導入・練習していたが、各課ごとにプリントを配付し、課の漢字にまとまりが付けにくく、体系的に教えられなかったので、この「基本漢字 500 BASIC KANJI BOOK VOL.1」を使用するようにしたということである。このテキストを選んだ理由は、各課にまとまりがあり、本になっているため、書き順・練習問題・索引等、必要な物はすべて揃っており、学生が達成感をもちやすく、また、復習等もしやすく、使いやすいと考えたからである。

補助教材として、漢字の字源とバリエーションのプリントを5冊の漢字辞書から切り貼りして作成し、配付した。（注6）（資料1）宿題として、テキストの読み練習と書き練習のプリントを配付した。

2. 3. 授業スケジュール

J1とJ2の漢字クラスのスケジュールは下記の通りである。スケジュールは専任担当者が作成した。漢字のクラスは週に1回、金曜日の1時限目の90分であった。

J 1				J 2			
日にち (週)	導入	クイズ	宿題	日にち (週)	導入	クイズ	宿題
(1)				1/16 (1)	5&6 課		5&6 課
10/16 (2)	説明			1/23 (2)	15課	5&6 課	15課
10/24 (3)	1 課		1 課	1/30 (3)	16課	15課	16課
10/31 (4)	2 課	1 課	2 課	2/6 (4)	10課	16課	10課
11/7 (5)	3 課	2 課	3 課	2/13 (5)	11課	10課	11課
11/14 (6)	9 課	3 課	9 課	2/20 (6)	12課	11課	12課
11/21 (7)	7 課	9 課	7 課	2/27 (7)	13課	12課	13課
11/28 (8)	4 課	7 課	4 課	3/6 (8)	14課	13課	14課
12/5 (9)	8 課	4 課	8 課	3/13 (9)	17課	14課	17課

上記のスケジュールのJ1、2週目（10/16）の説明というのは、専任担当者が行った、学習の仕方や音読み・訓読み等の、漢字についての一般的な導入、及び説明のクラスである。

中間試験は、J1が11月4日、J2が2月9日で、期末試験はJ1が12月12日、J2が3月19日であった。試験の範囲は、J1の中間試験が1・2課、期末試験が3・9・7・4・8課で、J2の中間試験が5・6・15・16・10課で、期末試験が11・12・13・14・17課であった。

導入の順番がずれているのは、主教科書にあわせたものである。例えば、9課は動詞の漢字（例えば、行・食・見等）で、教科書ではその前の週に、動詞の導入と練習を行った。

それゆえ、語彙としても既習であり、練習問題の文型も導入済みであった。また、15課は人間関係(家族関係)、16課は形容動詞(な形容詞)で、これも、教科書でその前の週に導入・練習したものである。

導入した漢字数は、J1が77、J2が116で、合計193である。(資料2)

2. 4. クラスの進め方

授業では、まず初めに、前の週に導入・練習した漢字のクイズをした。このクイズは、15~20点のミニテストのことで(注7)(資料3)、学期の初回を除いて毎週行った。遅刻者は受けられない。その後で、字源のプリントと書き方の練習用の罫目のプリントを配り、テキストのユニット1の導入をしてから、ユニット2の、その課の新しい漢字の書き方・読み方を導入・練習した。

書き方の練習では、特に次の2点に気を付けて導入し、練習するようにした。前述したように、できるだけ、学生が「漢字は難しくて大変なものだ」と思わないように導入することと、漢字のバランスに気をつけて書くように指導することである。これは、まず、漢字はそれ程難しくなく、楽しいものであると学生が思い、できれば、漢字に興味を持ち、漢字、ひいては、日本語を好きになってもらいたいと願うからである。そのため、カタカナや既習の漢字を組み合わせた導入方法を行った。これは、武部(1983)で、覚えやすく、役に立つ導入方法と指摘されている。例えば、「休」はカタカナの「イ」と漢字の「木」、「朝」は漢字の「十」と「日」と「月」の組み合わせとといったように導入した。学生はそれぞれの部分を知っているので、それほど抵抗なく、書く練習をしていたように思われる。次に、漢字のバランスだが、どんなに各部分が正しくても、全体のバランスが悪いと、漢字としては変なものになってしまうことが少なくない。それで、導入の際にもその点を注意し、各自が書く練習をしている時には、できるだけ学生の間を回り、書いている字をチェックするようにした。

漢字の字源とバリエーションのプリントは、漢字を覚えるのに役立つと思い、作成したものである。字源については、永保(1969:p.80)は、「字源を教えすぎないこと」が肝要であるとしながら、「漢字を覚えるためのヒントとして字源を利用する方法もある」とし、さらに、「もしそれが語源俗解であっても、語を覚えるという趣旨さえ通ればそれはそれでひとつの方法である」と指摘している。また、武部(1985:p.97)には、「入門課程で字体と意味とを結びつけるのは、漢字学習の手段であり、字源の研究とは別のものである」ので、「語源的に見て誤りであっても、一向に差し支えはないのである」という指摘がある。さらに、川本(1977:P.8)は、「字源は漢字学習に不可欠なことではないが、学生の興味を引くという点でぜひ教えたことの一つである」と指摘している。そこで、字源に関しては、プリントを配付しただけで、授業では特に、説明をせず、学生達の自主性にまかせることにした。新しい漢字の書き方の導入をした時に、配付されたプリントを見ている学生が多かったが、字源の説明が英語なので、すぐ理解でき、便利だったようである。

バリエーションは、主教科書やテキストの字だけではなく、いろいろな形があるということを生徒が理解し、書く時の参考として作成した。実際、書く練習をしている時に、学生から、「(自分の書いた)この漢字は正しいか」という質問がかなりあった。

書く練習については、永保 (1969)、川本 (1977)、武部 (1983, 1985) が、書きの練習は漢字を覚えるのに有効であると指摘している。学生達は、J1の初めから、書く練習を嫌がるようなことは全くなかった。ただ、導入した当日はバランスや注意する点などもまだ覚えているが、一週間後のクイズでは、書きの問題は読みの問題よりたいへんだったようである。

授業の最後に、宿題でもある、テキストの読み練習のところを読む練習をした。時間に余裕がある時には、数名の学生に、その日に導入した漢字を板書させた。

3. アンケート

J2の最後の授業(3月13日)で学生にアンケートを行った。回答数は22で、その結果は次の通りである。なお、アンケートは英語で行った。

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
(1) The Textbook was useful.	13(59%)	9(41%)	0	0
(2) Quizzes were challenging and worthwhile.	9(41%)	11(50%)	2(9%)	0
(3) Assignments were challenging and worthwhile.	4(18%)	16(73%)	2(9%)	0
(4) Handouts of Kanji origin & printing types were helpful.	8(36%)	7(32%)	6(27%)	1(5%)
(5) The way of introducing Kanji writing was helpful.	13(59%)	8(36%)	1(5%)	0

このアンケートから、テキストについては100%、クイズと宿題と導入方法については91%の学生が満足していることがわかる。字源とバリエーションのプリントについてはばらつきが出たが、68%の学生が役立つと考えていることがわかった。

上記の質問の他に、自由にコメントを書いてもらった。その結果、次のようなものが出てきた。

- (1)漢字は教科書と関連があったほうが望ましい。
- (2)練習する課は飛ばないほうがいい。
- (3)クイズをしていない課が中間試験と期末試験の範囲に入っているのは、大変である。
- (4)短い段落等で読む練習もしたほうがいい。
- (5)漢字の字源はおもしろい。
- (6)漢字の字源は役に立つ。

(3)のクイズをしていない課とは、中間・期末試験の前の週に導入・練習した課のことである。クイズは、導入した翌週の漢字クラスであることになっているので、中間・期末試験の前に行くことはできなかった。J1では2課と8課、J2では10課と17課である。

4. おわりに

J1では、学生が47名もいた。それで、途中から、時間に余裕のある上級の学生（留学生）が1名、ボランティアの助手として学生達を書く練習をしている時に見て回り、手伝ってくれた。しかし、J2ではずっと一人で33名の学生に教えた。一字ずつ、導入する度に学生の間を回り、書いている漢字をチェックするのは、かなり時間がかかった。そのため、テキストのユニット3にある読み物やゲーム、復習等をやる時間が全くとれなかった。アンケートのコメントにもあったが、漢字を単語で学ぶのも大切であるが、それと同時に、段落等の文脈の中で漢字を読んでゆく練習もできたらよかったと思われる。時間的には難しいかもしれないが、文脈の中で漢字を理解することも大切な勉強である。また、このJ1とJ2では、読みの授業がなかった。できたら、少しでも漢字を使った練習をする時間がほしい。

実は、J2で実際に授業をしていて、気付いたことが2点ある。ひとつは、学生が自主的に、漢字を知っている部分に分解して理解するようになってきたことである。例えば、「度」を導入して板書した時、学生の方から「友だち」という言葉が自然に出てきた。「度」の「又」と「友」の「又」が同じだと言うのである。実は、筆者は、この漢字は既習の語では分解できないと思っていたので、学生からそのようなことを言われ、感心した。もちろん、学生全員がそのような発想ができるようになったわけではないであろう。しかし、初めての漢字を見ても、知っている部分を見つけられるようになってきているようである。もうひとつは、10課を過ぎたあたりから、画数が増えたためか、書くことが学生の負担になってきたようだということである。導入・練習時だけでなく、クイズの書きの問題もミスが目立つようになってきた。それゆえ、以上のようなことを専任担当者と話し合った結果、次のJ3では、書くことから読むことに重点を移すことになった。導入時に板書はするが、今までのように学生に漢字を書く練習の時間を長くとらず、その時間をユニット3の読み物やゲーム等にあてる予定である。また、クイズや試験も読み中心の物にする。このやり方によって、J2での問題点が少しは改善されるであろう。

アンケートへのコメントにもあるが、クイズをしていない課を中間試験と期末試験の範囲に入れるのは、学生の負担が大きいのかかもしれない。前述したように、中間・期末試験の時期は、学生が専門の授業の試験やレポートや発表等でたいへん忙しい。学生の負担を軽くするためには、大きい試験の前の授業は、先に進まず、今までのまとめや復習をするのもいいかもしれない。

さて次に、教科書と漢字のテキストが違う場合の問題点について考えてみる。今回の場合、主教科書の語彙と漢字テキストの漢字がずれることが少なくないので、漢字クラスでは、漢字を導入するだけではなく、単語も新しく導入しなければならないことが多く、導入・練習に手間がかかった。また、アンケートのコメントにもあるように、学生の負担も少なくなかったようである。導入する課を入れ換えた時には、そのような手間がかからず、たいへん楽であった。ただ、3課の後、9課に飛んだ時には、急に画数が増え、難しくなったため、普段よりずっと手間がかかった。確かに、漢字を導入する前に、学生がその単語を知っていると導入が楽にできる。しかし、曜日や数字の後に、急に「掃」や「読」等の漢字を導入するのは、やはり、難しかったのではないかと思われる。

一方、「基本漢字 500 BASIC KANJI BOOK VOL.1」のような本を使うと、各課に漢字としてまとまりがあるので、その課の漢字としてはまとめやすい。また、例えば、部首が同じ漢字を一緒に導入することができるため、わかりやすいところもある。しかし、学生にとっては、主教科書と漢字テキストが違くと、覚えることが増え、たいへんである。初級の終わりまで学習して初めて、今までバラバラだとしかと思えなかった主教科書と漢字が、関連があったことがわかるのではないだろうか。この教科書との関連と導入の順番の問題はなかなか難しい問題である。主教科書に添った漢字の本があれば、それにこしたことはない。しかし、本を作るのはたいへんな作業である。中途半端なものなら、かえって今回のように、きちんと本になっているものを使用した方が望ましいのではないだろうか。

最後に、日常生活で日本語を使う機会があまりなく、専門の勉強に忙しい非漢字系学習者に対する初級レベルでの漢字指導について考えてみる。国際大学の学生のように、入学試験や能力検定試験を目指さなくてもよい学習者の場合でも、初級入門期においては、漢字の読み方も書き方も、両方導入し練習した方が望ましいと思われる。しかし、学習者がある程度漢字に慣れてきたら、書きの練習より読みの練習に比重を移していった方がいいのではないだろうか。現代はワープロやコンピューターで文書が作成できる。その際必要なのは、正しく読み、理解できる能力なのではなからうかと思われるからである。

筆者は、国際大学では、まだ、J1とJ2しか教えておらず、J3まである初級コースの途中なので、初級が終わる時に、これらの問題がどのようなになっているかという、最終的な判断はまだできない。来学期はJ3を担当することになっているので、今後は、今回の反省を踏まえて、少しでもわかりやすく、よりよい授業ができるように努めていきたいと思っている。

注

1. 日本語一レベルは次の通りである。

挨拶、買い物、簡単な自己紹介等、限られた場面でのやりとりができる。基本的な動詞、名刺、形容詞の使い方、及び月日、時間、曜日表現等を習得。平仮名、片仮名、漢字約80字の読み書きができる程度。週6コマ。1コマ=90分。

2. 日本語二レベルは次の通りである。

日常生活の場面でいくつかの動作の描写ができ、自分の希望や判断、またその理由を相手に伝えることができる。漢字は約200字程度の読み書きができる。週6コマ。

3. “Japanese for IUJ Students” (Part 1 & 2) (試用版:1996/97) Japanese Language Program, International University of Japan
4. 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子(1989)「基本漢字 500 BASIC KANJI BOOK VOL.1」, 凡人社
5. この人数は、J1とJ2それぞれの学生総数である。漢字クラスでは、同じレベルの学生が皆一緒に学ぶが、文法や会話のクラスは、2セクションに分かれて行われた。
6. 漢字の字源とバリエーションのプリントを作るために使用した本は次の通りである。

① A NEW DICTIONARY OF KANJI USAGE (1982) 学研

② THE FIRST STEP TO KANJI PART I (1969) 大阪外国語大学

③ THE SECOND STEP TO KANJI PART 1 大阪外国語大学

④ 曾我松男・遊佐道子 (1989) 「BASIC KANJI 英文基礎漢字」 大修館

⑤ Michael Rowley (1992) KANJI PICT-O-GRAPHIX, Stone Bridge Press

上記の内、①～③を中心に切り貼りをして、プリントを作成した。

7. クイズの配点は、15点満点の時は、読み9点、書き3点、意味3点で、20点満点の時は、読み14点、書き3点、意味3点である。なお、意味というのは、漢字の意味を英語で書く問題のことである。

参考文献

川本喬 (1977) 「漢字の多面性と指導」 「講座 日本語教育」第13分冊 早稲田大学語学教育研究所 pp.1-14.

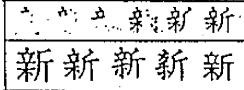
武部良明 (1983) 「漢字の覚え方について」 「講座 日本語教育」第19分冊 早稲田大学語学教育研究所 pp.83-100.

武部良明 (1985) 「入門課程の漢字指導——非漢字系学習者の場合——」 「講座 日本語教育」第21分冊 早稲田大学語学教育研究所 pp.89-104.

永保澄雄 (1969) 「漢字指導上の問題」 「講座 日本語教育」第5分冊 早稲田大学語学教育研究所 pp.72-83.

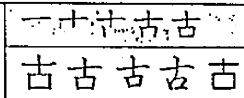
LESSON 8

新



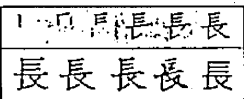
[新] is the combination of [𠂇] and [斤]. [𠂇] represents "a tree with thick foliage". [斤] is the sketch of an axe. Thus, [新] represents "the act of cutting down a fully-grown tree". Thus, [新] means "fresh" and "new" from the idea of a tree which has just been cut down.

古



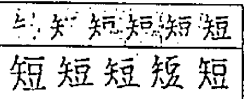
[古←古 or 𠂇] is the hieroglyph of a bleached skull. The character means "the dead" or "old".

長



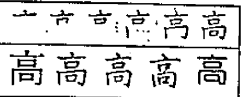
[長] was transformed from the figure of an old man with long hair, holding a stick. [𠂇→長→𠂇→長] Thus, this character means "long", "the eldest" or "the chief."

短



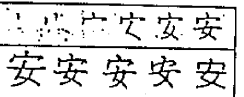
[短] is the combination of [𠂇←𠂇] (an arrow) and [豆←豆] (a small one-legged table). It means "straight and short", "brief" or "insufficient".

高



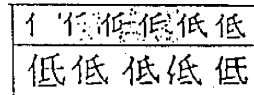
[高] comes from [𠂇], the sketch of a watch-tower. Eventually, it came to mean "high".

安



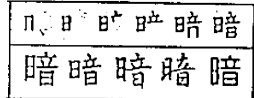
[安] is the combination of [一] (a house) and [女]. Since a woman makes homelife secure, this character means "peaceful" or "restful".

低



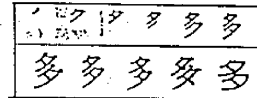
[低] is the combination of [一] (a person) and [低] (the phonetic component), which is formed from [低] (a shallow spoon used for cutting food on a large plate, Ref. No. 117) and [一], representing the idea "short (height), or low". It originally represented a short person, and thus came to mean generally "low".

暗



[暗] is the combination of [日] (the sun, representing the brightness) and [音] (indistinct pronunciation, Ref. No. 51). It means brightness insufficient to distinguish objects, i. e. "dark".

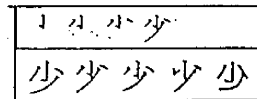
多



[多] is a figure representing "the appearance of the half moon over a mountain peak", and means "evening". [多] is formed from two [夕]. Thus, it came to mean "many" or "much".

There is another explanation of its origin. [夕] was originally written [夕] (a simplified form of [月←肉 (meat)]). Thus, [多] represented the figure of heaped meat, and came to mean "plenty of" or "many; much".

少



[少] is the combination of [小] (Ref. No.29) and [一]. The purpose of [一] is to distinguish [少], from [小]. The character means "a little; a few".

資料2 「基本漢字 500 BASIC KANJI BOOK VOL.1」に出てくる各課の漢字は次の通りである。導入順に並べた。

J 1	1課	日	月	木	山	川	田	人	口	車	門								
	2課	火	水	金	土	子	女	学	生	先	私								
	3課	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	百	千	万	円	年			
	9課	行	来	帰	食	飲	見	聞	読	書	話	買	教						
	7課	花	茶	肉	文	字	物	牛	馬	鳥	魚								
	4課	上	下	中	大	小	本	半	分	力	何								
	8課	新	古	長	短	高	安	低	暗	多	少								
J 2	5課	明	休	休	好	男	林	森	間	畑	岩								
	6課	目	耳	手	足	雨	竹	米	貝	石	糸								
	15課	友	父	母	兄	姉	弟	妹	夫	妻	彼	主	奥						
	16課	元	気	有	名	親	切	便	利	不	若	早	忙						
	10課	朝	昼	夜	晩	夕	方	午	前	後	毎	週	曜						
	11課	作	泳	油	海	酒	待	校	時	言	計	語	飯						
	12課	宅	客	室	家	英	薬	会	今	雪	雲	電	売						
	13課	広	店	度	病	疲	痛	屋	国	回	困	開	閉						
	14課	近	遠	速	遅	道	青	晴	静	寺	持	荷	歌						
	17課	出	入	乗	降	着	渡	通	走	歩	止	動	働						

資料3 (クイズ)

かんじクイズ L. 14

なまえ:

1. Write the readings in hiragana.

① 道 ② 荷物 ③ 歌う ④ 遅れる ⑤ 遅い

⑥ 速い ⑦ その寺は遠いです。

⑧ あの英国人の青年は目が青いです。

⑨ あしたは夕方から晴れるでしょう。

2. Write kanji.

① しずかな ② もつ ③ ちかい

3. Write the English meanings.

① 歌 ② 道 ③ 速